

Lesson 13 B7 Chord New Rhythm

Lesson 13 B7 コード

以前 Lesson 10 においてブルース進行パターンを紹介したよね。

(0:04) (6 弦や 5 弦の) 開放を使うこのパターンだよ。

今度はこれを B 弦 (!) でやってみるよ。

(Robben のいい間違い→要は、E の 12 小節ブルースにおける V コードである B7 をやるということ)

(0:38)

ということで、これは B7 コードだ。(0:44)

コードの成り立ちなど細かいことは置いておいて、この型が B7 だよ。

まず注目して欲しいのが…

-playing(1:03)-

初心者にとっては少し弾きにくいかもしれないけど、何とか頑張って欲しいな。

そして問題は手を大きく広げないとできないところ。

でも手を広げれば広げるほど、まるでヨガのような (?!) エクササイズになるから頑張ってね。

-playing(1:33)- (手が痛いかもしれないけど頑張って!) (そのパターンのまま 1 音下がって A に行くよ)

(1:50)

この A のパターンは、5 弦開放の A を使うパターンと全く同じだけど、サウンド的に少し暗い感じかな。

でも 5 弦開放の方はどちらかというとパリパリした感じとでもいうのかな。

(2:15)

B7 は、6 弦 7 フレット B で弾く代わりに 5 弦 2 フレット B で弾いてもいいけど、個人的には少し弾きにくいかな…。

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦